

宝の山に



ヨモギの試験栽培について意見交換する懇談会＝長岡市一之貝

収益性高い野草栽培へ 栃尾で生産者ら懇談

県長岡地域振興局などは、中山間地の所得確保を目指し、長岡市栃尾地域を中心に作付けしていない土地を活用して野草の栽培に取り組んでいる。試験栽培について情報交換する懇談会が地域の高齢者、障害者の支援活動拠点「UNEH A US(ウネハウス)」で開かれ、一定の収益が見込めることや収量増に向けた取り組みなどが報告された。

野草栽培は、同振興局やJA越後ながおか栃尾営農センター、ウネハウスを拠点とするNPO法人「UN E(ウネ)」などが取り組んでいる。

3月上旬の懇談会には関係者約20人が集まり、妙高市の発酵食品メーカー「ミヤトウ野草研究所」に納めるヨモギの栽培について意見を交わした。

ウネは2018年にヨモギの試験栽培を始め、19年には農地7㌥で採れたヨモギ約200キ(乾燥重量)を出荷した。代表の家老洋さん(62)は「手間が掛からず、

機械もいらぬ。収益性はコメより高く、障害者の仕事に適している」と述べた。20年の収穫に向け、水はけが悪いため作付けしない水田などを活用。ほ場を34㌥に増やし、効率的な育て方を研究することを報告した。

同研究所は「県産の野草を求めている。オオバコやトクタミなど、別の野草にも挑戦してほしい」と要望。県は暫定版の栽培マニュアルを説明した。